

# 算命学中庸

## 【初年】 58 回目

58 回目の授業はこのページからです。

授業科目      【天中殺論】 (4) 生月中殺

・【初年】 58 回目 【天中殺論 (4)】 「生月中殺」 01

「宿命中殺」をもつ人は、此の世に生まれたときからすでに宿命内の干支が中殺されています。

「年干支」が中殺されていれば「生年中殺」です。

「月干支」が中殺されていれば「生月中殺」です。

あるいは、宿命全部が中殺されていれば「宿命三中殺」になります。宿命中殺はほかにもいくつか種類があります。

それら宿命中殺の名称はすでにご紹介しました。

🔍 【初年】 57 回目 【天中殺論 (3)】 13 頁に記載してあります。

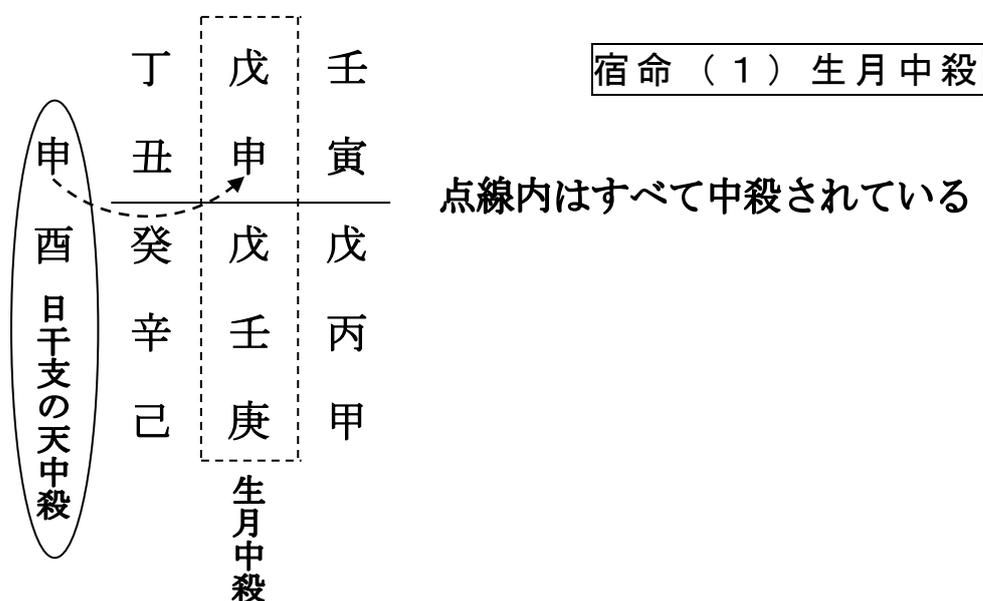
📎 生月中殺 (せいげつちゅうさつ)

**宿命 (1) 生月中殺** 宿命は「壬寅」「戊申」「丁丑」

月干支「戊申」が不自然融合ふしぜんゆうごうになります。

この宿命は「生月中殺」です。

日干支「丁丑」の天中殺が (月支) を中殺している。



**日干支の天中殺は生きているあいだ自分に関連します**

参考：関連 [かかわりつながること]

日干支は「丁丑」ですから「申酉天中殺」です。

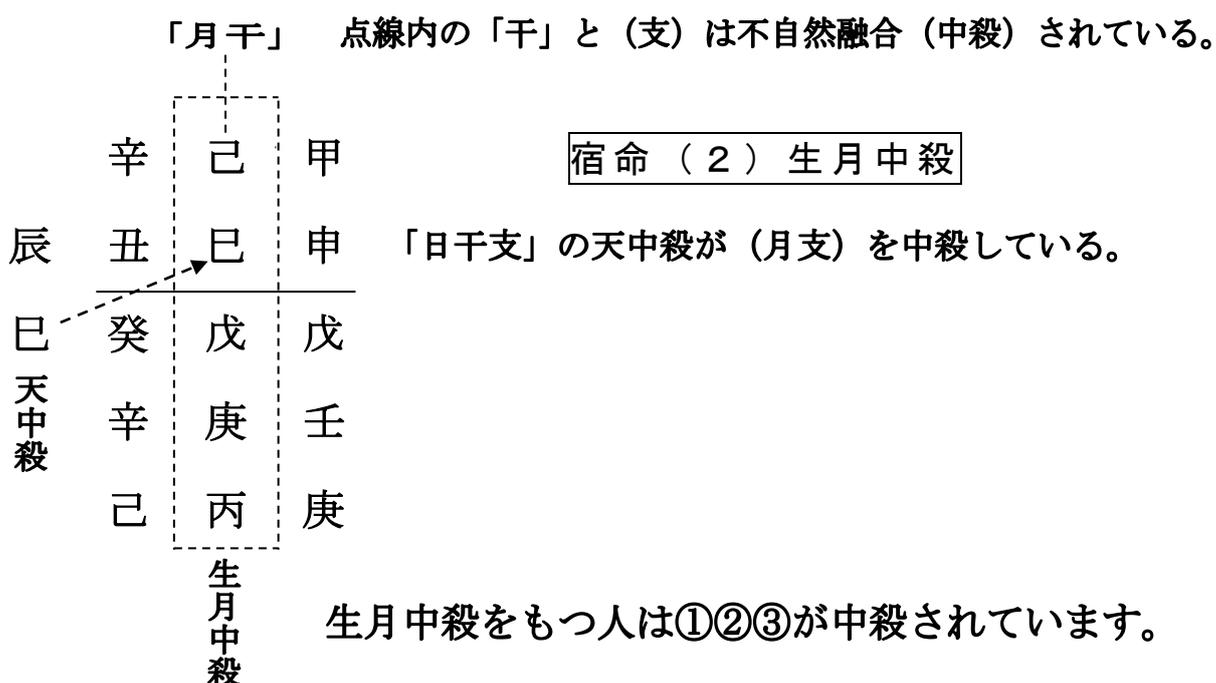
日干支「丁丑」の天中殺をさがすときは **天中殺表** をつかいます。

**天中殺表** で「丁丑 14」をさがすと申酉天中殺ですから、「生月中殺」をもっている宿命です。

☞ 生月中殺「月干」

〔①社会の場所〕〔②子供の場所〕〔③友人・兄弟の場所〕  
 という意味があります。

番号は理解しやすいようにつけました。順番は関係ないです。



〔①社会の場所〕

社会は常識を共有する人々の集まる場所です。

生月中殺は社会の場所と不自然融合ですから、社会を改革する反体制的ともいえます。この人物が会社あるいは組織の中枢に存在して、宿命が生きれば見事です。しかし宿命が活かないと、見事とは反対の反動を受けてしまうともいえます。〔よい〕〔わるい〕を論じていません。

参考：常識〔社会人と当然もっている知識・判断力〕

〔②子供の場所〕

生月中殺をもつ人は「子供の場所」を不自然融合にしています。子供が生まれれば中殺します。

子供と融合せず、我が子と一体にならないわけです。

宿命に生月中殺をもつ人は、男性であろうと、女性であろうと、子供と縁えんが無い状態がつくられます。

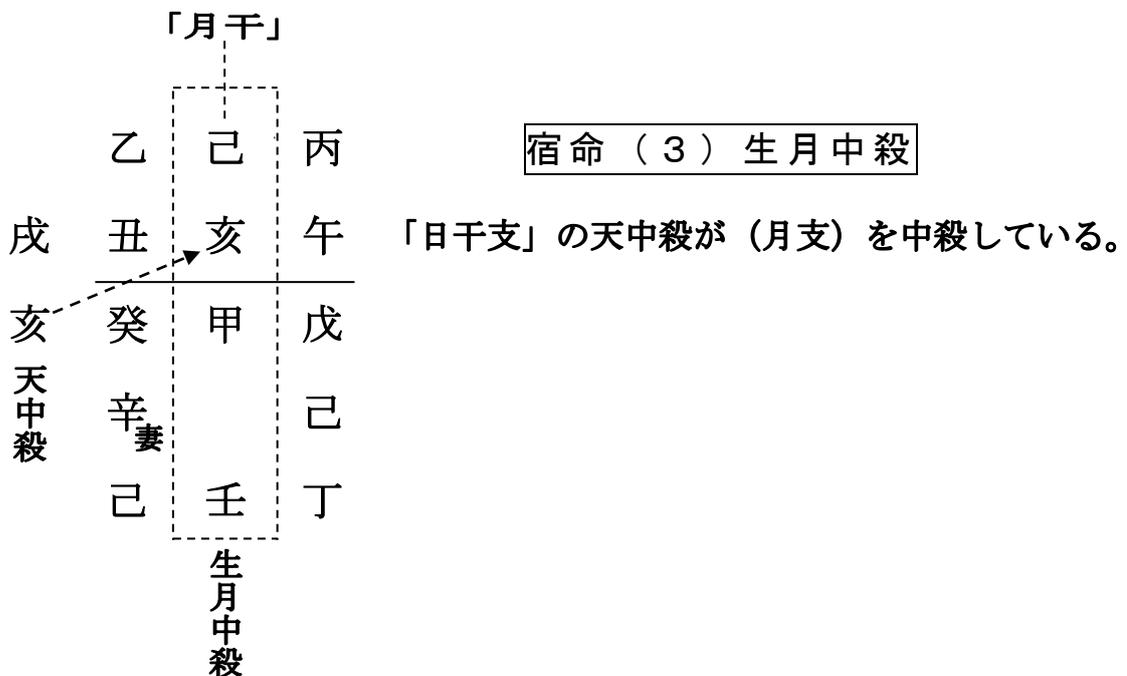
子供と縁がうすい状態もふくまれます。

〔よい〕〔わるい〕を論じていません。

参考：融合〔異なるものが一体になる〕ここでは親と子。

参考：状態〔人や物事のある時期におけるありさま〕

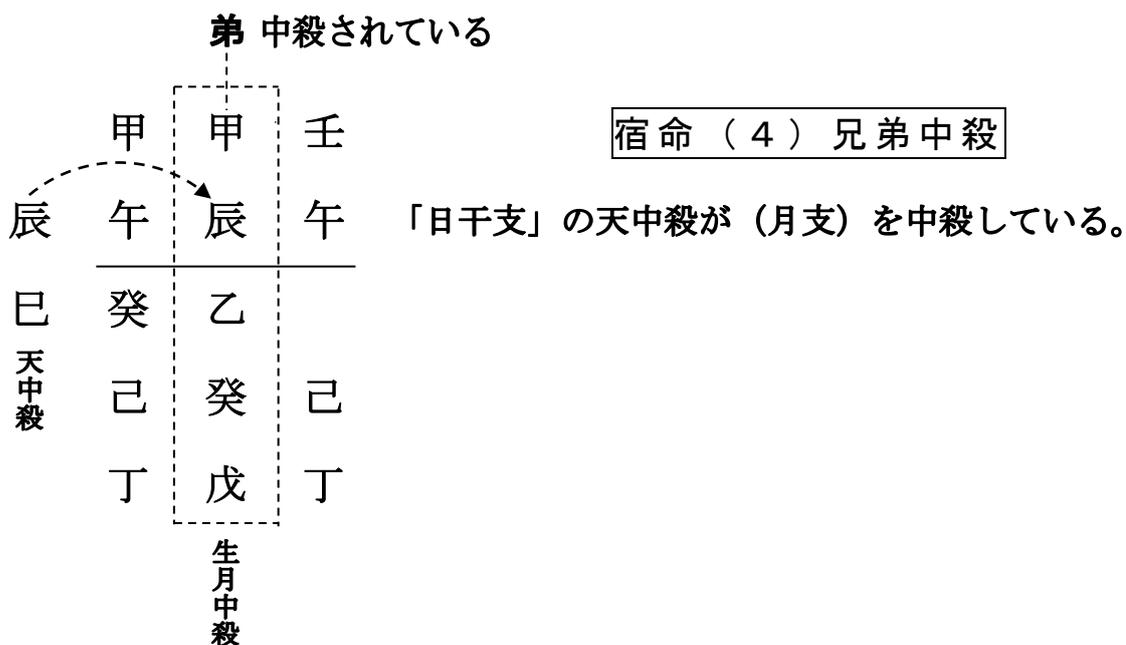
点線内の「干」と（支）は不自然融合（中殺）されている。



宿命は本田宗一郎氏です。最初の結婚で男子と女子が生まれましたが、2人の子供は5歳未満で死んでいます。

〔③友人・兄弟の場所〕

生月中殺をもつ人は、友人・兄弟を中殺しています。



日干「甲木」の人物は実業の世界で成功しています。

生月中殺のなかに弟がいますから中殺されました。

この人物の弟は米国留学中に病気を<sup>わずら</sup>患い他界しました。

弟が死んでいますから兄弟中殺になります。

兄弟中殺が〔よいとか・悪いとか〕一切論じていません。

宿命内には、ほかにも中殺をうけている人物が存在しますが、

ここでは説明を<sup>はぶ</sup>省きます。

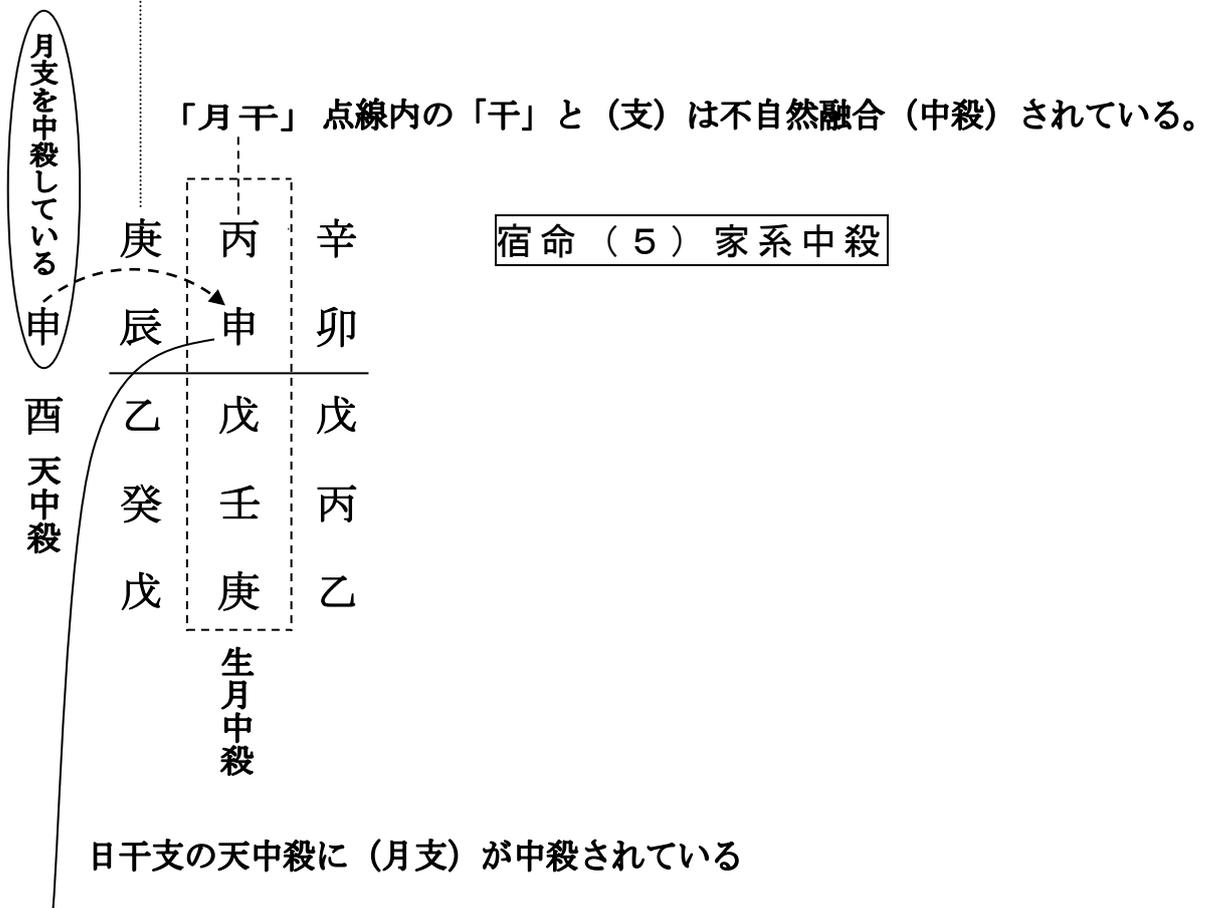
☞ 生月中殺（月支）

（月支）は〔④家系の場所〕という意味があります。

生まれながらに本人と家系が不融合の状態です。

家系と融合しないということは、家系とは縁<sup>えん</sup>が無い状態がつくられます。男性も女性も家系中殺<sup>かけいちゅうさつ</sup>になります。

日干「庚金」を（たとえ）にして説明します。



（月支）は家系の場所です。家系が中殺されています。

参考：家系〔家の系統。その家の血筋。〕

参考：不〔文の主語となり得るものにつけて、それを否定する意を表す語〕

参考：融合〔とけあって一体になること。異なるものが一つになること〕

**宿命（5）家系中殺** 日干「庚金」は生月中殺をい活かしました。

祖父が創業した服飾会社を、父親が跡を継ぎましたから、父親は服飾会社の二代目です。

日干「庚金」が実家の仕事を継げば三代目になります。

「庚金」の人物は高校を卒業すると親の反対を押し切って、実家から出ました。

彼は不動産会社に就職して、会社の寮に入って勉強すると、『不動産鑑定士』の資格を取得しました。

数年後に父親が他界しましたので、母親から父親の会社を継ぐようにいわれましたが、日干「庚金」は父親の遺産を元にして不動産会社を起業して、結婚式場の経営を始め、その後にステーキハウスを開店しました。

彼が興した会社は、服飾関係とはまったく違う分野です。

このように家系とは異なる分野に進むことが、生月中殺をもつ人物が成功を収めるひとつのみち途といえます。

宿命に生月中殺をもつ人は、家系を継いではいけない宿命だからです。

家系を継げないという意味は、家系とおなじ仕事をしてはいけません。家系とおなじ仕事をすれば、家系を継いだことになってしまうのです。その意味もふくまれます。

☞ 生月中殺をもつ人は（月支＝家系の場所）を中殺して  
いますから、家系と不融合の宿命です。

男性でも女性でも、家系と融合しないわけですから、  
家系（生家）に縁えんが無い状態がつくられます。

女性であれば結婚して他家に嫁げば、嫁ぎ先は実家  
ではないので、嫁ぎ先を中殺するという事はない  
です。家系というのは実家（生家）です。

☞ 家系は男性も女性も自分が生まれた実家じっか せいか（生家）です。

養子先ようしき・養女先ようじょき・婚家先こんかきではなくて実家を意味します。

☞ 生月中殺をもつ男性でも女性でも、実家の家系と縁えんが  
うすい状態・実家と縁えんが無い状態しょうがいは生涯続きます。

家系と縁えんが無い状態は先祖の入り口〔親が生きていても〕  
〔親が死んでいても〕です。

☞ 宿命に生月中殺をもっている人は生家と縁えんがうすい、  
縁えんが無いわけですから、家系の跡継ぎになれません。

しかし、跡継ぎになっている場合もあります。

そのような場合には、家系のなかに犠牲者をつくること  
になります。 参考：継ぐ〔絶えないようにあとを続ける〕

参考：跡継ぎ・後継ぎ（あとつぎ）〔家督をつぐこと。あととり〕

参考：家督（かどく）〔相続すべき家の跡目を継ぐべき子〕

⇒ 家系の跡継ぎを『家業』に置き換えて考えます。

〔たとえば〕生月中殺をもつ①さんの実家は北海道で酒屋を営んでいます。成長した①さんは東京に住みました。東京に住むのはよいのですが、実家が酒屋の①さんが東京で酒屋を開店すると、家業を継いだことになります。生月中殺のある人は実家とおなじ仕事はできません。

⇒ 生月中殺をもつ人は〔跡継ぎになれない〕といいました。〔たとえば〕生月中殺をもっている人が家業を継ぐと家業を潰すということが起こります。

〔家業を継ぐ〕というのは、自分の子供に家業を引き渡してゆくことをいいます。

『生月中殺の私が家業を受け継ぎましたけど潰れました』となると、家業を受け継いだことになりません。

『あの人っ、せっかくお店を継いだのに死んじゃったわ』これも駄目ですね。

実際に『生月中殺をもつ人が家業を継いで営業している』とか、『生月中殺をもっていて、家系に縁が無い人なのに実家を出ないで暮らしている』とか、このような生き方は

「生月中殺は親の跡を継げません」という意味に反しています。現在を生きる真実の状態が大きな意味をもちます。

家系を継ぐということについて、〔先祖の菩提ぼだいをとむらう役目をひき継いでお墓を守る〕このように考えている人もいますが、現在いま生きている姿が主しゅになります。お墓を守るという話もありますが、ここで肝要かんようなのは実際の生き様いざまを意味します。

菩提を弔う〔死者の冥福を祈り供養する〕 肝要〔非常に大切である〕

☞ 宿命に「生月中殺」がある人物は、“家系中殺”かけいちゅうさつですから、家を継つがないほうがよいのです。なぜかといえば、宿命に生月中殺をもつ人物が家系を継ぐと、本人の宿命から外はずれるため、災わざわいが前ぶれもなく、本人あるいは身近みぢかにおよびます。生月中殺は家系中殺です。家系を継げば当然ですが禍わざわいはおこるといえます。

☞ 生月中殺をもつ人が家系を継いだから家系は続かない。とは決まっていません。

家系が続くためには条件があります。

条件付きで、後取りあととになれる場合もあります。

その場合は犠牲をとまいません。禍を生じます。

参考：身近〔自分と関わりが深いこと〕

参考：災い・禍〔悪い結果をもたらすような種々の事柄〕

☞ 女性が「生月中殺」をもっている場合です。

「生月中殺」をもつ女性が婿養子むこようしをもらうのは駄目です。家を継いだことになります。

婚家先こんかさき（自分がお嫁に行く家）であれば、長男のところへ嫁いとつでも構いません。

生月中殺をもつ本人は〔自分の実家との縁えんが薄うすい〕だけです。他家たけへ嫁ぐのは構いません。

嫁とついだ他家たけは、自分の実家・家系ではないからです。他家であれば、その家を継ぐ人物と結婚してもよいのです。

〔たとえば〕嫁ぎ先の家業を継ぐ男性が宿命しゅくめい中殺をもっていなければ、生月中殺をもつ女性が家系の跡取りの男性と結婚しても、その男性は家系を継げます。

参考：婿養子〔娘の婿として迎える養子〕

⇒ 月干は〔社会〕〔子供〕〔友人・兄弟〕の場です。  
と、はじめに説明しました。

月干の場所のなかで、人物で1番縁えんが深いのは子供  
です。

重複する箇所もありますが話しを進めます。

「生月中殺」をもつ人は子供縁こどもえんがうすいです。

生月中殺をもっている男性も女性も我が子との縁えんが  
うすいです。このことは要点ようてんです。

生月中殺をもつ人は、子供を頼ることはできません。

子供と縁が薄いのです。子供と縁が無いのです。

参考：要点〔大切なところ〕

⇒ 「縁が薄うすい」とはどういうことなのかです。

そこで考えられることは、〔子供が生まれにくい〕

〔子供が生まれない〕ということも起ります。

絶対に子供が生まれないとはい切れません。

「生月中殺」をもつ人は、子供が誕生して育っても、  
子供との縁がうすいために、子供が離れて行くとい  
うありさまも生じます。

参考：ありさま〔ものごとの状態〕

☞ [子供が生まれにくい] とか [子供が生まれない] という意味では—— つぎのような場合もあります。

「月干」を〔②子供の場所〕として考えます。

	17			
	庚	癸	甲	
申	辰	酉	午	
酉	乙			
	癸		己	
	戊	酉	丁	
日干支の天中殺		生月中殺		

宿命 (6) 夫・生月中殺

「日干支」の天中殺が (月支) を中殺している。

	16			
	己	丙	壬	
申	卯	午	寅	
酉			戊	
	癸	己	丙	
	乙	丁	甲	
日干支の天中殺				

宿命 (7) 妻・宿命中殺なし

宿命に金性はありません。

日干「己土」が (土→金) 生じる金性が無い

夫の日干支は「庚辰 17」です。

「庚辰」を天中殺表でさがすと申酉天中殺です。

「日干支」の申酉天中殺が月支 (酉) を中殺していますから「生月中殺」の宿命です。

**宿命(7) 妻・宿命中殺なし** をみますと、日干支は「己卯」です。「己卯 16」を天中殺表でさがすと申酉天中殺です。

妻の「日干支」の天中殺(申)も(酉)も、地支(卯 午 寅)を中殺していません。

妻は宿命中殺をもっていません。

このご夫婦に子供がいません。子供が産まれないのです。妻が子供を産みますから、妻の日干「己土」が(土→金)と生じていく金性が子供になります。

ろくしんほう  
(六親法をつかいます。「研究専科」で学びます)

金性は子供ですから、妻のしゅくめいない宿命中に金性があれば、女性には子供がいることになりませんが、宿命の二十八元をみても、金性は無いです。

この女性は子供がいない宿命です。

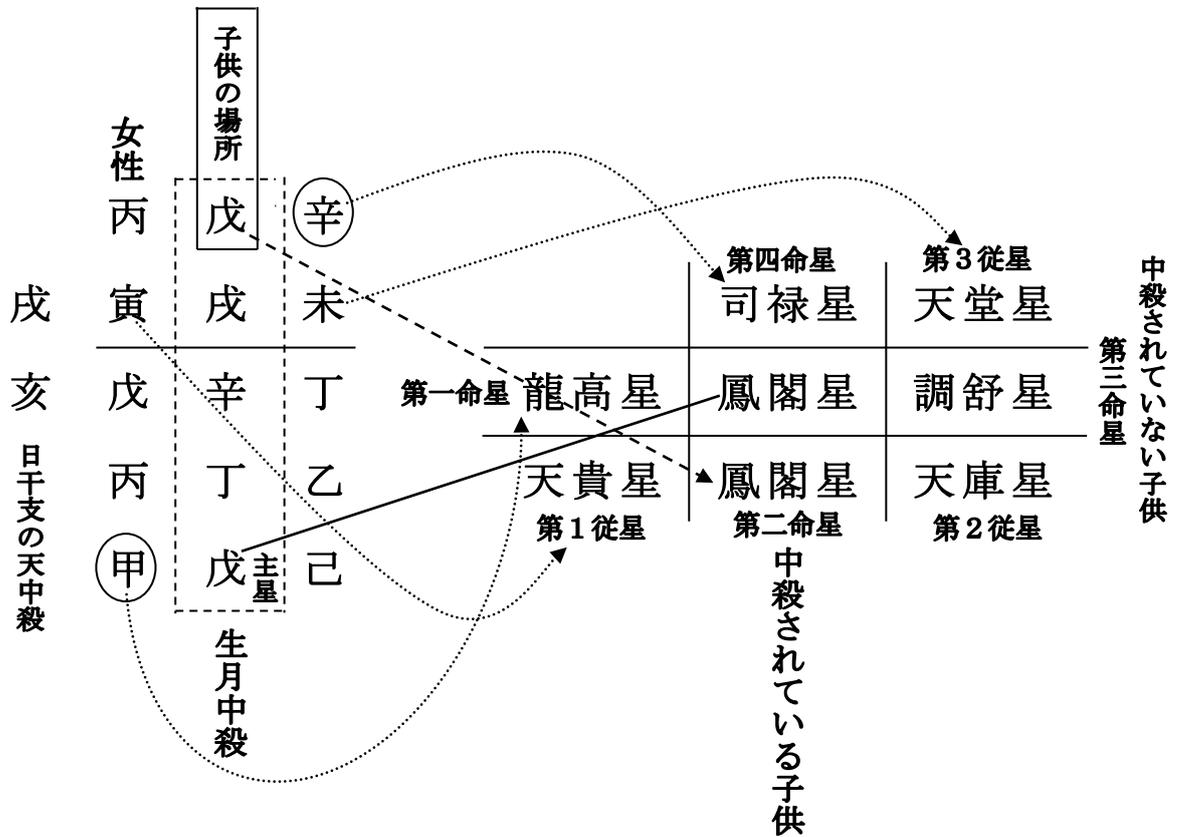
子供がいないことが〔よい・悪い〕一切論じていません。

夫は生月中殺ですから、子供中殺の宿命です。

子供と縁が無いのです。

このようなご夫婦の場合は、〔子供が生まれにくい〕とか〔子供が生まれない〕という状態がおこることがあります。

宿命(8) 生月中殺・女性 →13ページの女性と無関係です。



「月干」を〔②子供の場所〕として話しを進めます。

女性の日干は「丙火」です。

日干「丙火」が（火→土）と生じている月干「戊土」は第二命星の鳳閣星です。人物は子供で中殺をうけています。女性は子供中殺の宿命ですから、子供との縁が薄いので、中殺をうけている子供が離れて行くことも起こります。

月支（戊）の本元〔戊土〕は主星の鳳閣星で中殺をうけています。

（中殺をうけていない子供もいます。その話は省きます）

宿命（8）生月中殺・女性

日干「丙火」を母親として考えます。

母親の宿命は生月中殺です。

母は子供の場所を中殺していますから、子供を頼る<sup>たよ</sup>ことはできません。

子供は親の場所を中殺していませんから、親を頼れます。親と一緒に生活してもかまいません。

母親は子供の面倒<sup>めんどろ</sup>を<sup>み</sup>着てもよいのです。

（生年中殺は親の場所を中殺しているから親を頼れません。）

母親が生月中殺をもっていると子供中殺ですから、将来的には子供をたよることはできません。

一般的に母親自身が生月中殺をもっていようとまいと、子供が幼いときから、慈<sup>いつく</sup>しんで養育するはずです。それが母親の姿でもあるわけです。せつかく子供を養育したのに、子供をたよれないことは寂しいことですが、生月中殺を宿命にもつ人は、子供を中殺するのが宿命どおりです。

通常、親が子供を頼るようになる年代（時代）というのは、子供が成長して社会へ出てからです。

その頃<sup>ころ</sup>になると、親が子供を頼ることはできません。中殺へ追い込んでいる子供を頼れないのが生月中殺

もつ親の宿命です。

このことは親が男性でも女性でもおなじです。

成長して就職した子供が、親に給料を渡すということもあるわけです。(昨今は無いかも知れません。)

そうしますと、生月中殺をもつ親（子供中殺をもつ親）の年代が進むにつれて、子供が親の面倒を<sup>み</sup>看る程度が大きくなるはずですよ。

(親が高齢になれば、子供に面倒を看てもらおう状況が当たり前かもしれません。)

その状態は、自分が中殺している子供をあてにして助けを求める姿です。

そのような姿になると、子供をたよる親のほうが駄目<sup>だめ</sup>になります

なぜかといえ、自分が中殺している子供をたよれないのに、たよってしまうからです。

参考：駄目〔してはいけないこと。好ましくない結果になること〕

そして、子供に面倒を看てもらっていた親が死んだら、親の面倒を看ていた子供が駄目になるということが起こります。

これは生月中殺をもつ親のほう、たよってはいけ

ない子供をたよってしまったために、このようなことが起ります。

生月中殺をもつ親は我が子と不自然融合です。

つまり、我が子を中殺しています。

親のほうから子供を中殺して、親子の縁をうすくしています。その親が子供との縁えにしを篤あつくしたために、無理むりが生じて禍わざわいという状態が起こるわけです。

参考：無理〔道理に反すること。理由のたたないさま〕

⇒ 親が子供を頼たよれる場合もあります。

親が「生月中殺」をもっています。

「生月中殺」をもつ親から生まれた子供が成長して大人になりましたが『親が病気になった』ということであれば、その親は子供を頼ることができます。

⇒ 生月中殺をもつ人物が、子供を頼れない状態・状況はいろいろあります。

❖ 子供が生まれない場合。

❖ 子供が病弱の場合。

❖ 子供が非行に走るとか、ヤクザになったとかの場合。

❖ 子供が勉強しないとかで、駄目な子供の場合。

話しは変わります……

⇒ 「年干」は親の場所です。

生年中殺は『親と縁がうすい』ので、早く親元を離れたほうがよいのです。

しかし、親が不自然な状態（死ぬことも含めて）になっている場合には家を出る必要はないのです。

親元を早く離されなさいというのは、あくまでも親が健在の場合です。            参考：健在〔元気で暮らしていること〕

生年中殺は家系の場所（<sup>げっし</sup>月支）を中殺していません。

生年中殺の人は親を中殺していますが、家系とは縁があります。

ところが……生月中殺の場合は「家系中殺」です。

これは生月中殺をもつ人物の実家の話しですから、たとえ『親が生きていても』『親が死んでいても』実家・生家と縁<sup>えん</sup>がうすいです。

その意味で、生家・家系の跡継ぎにはなれません。

⇒ <sup>げっし</sup>（月支）は家系の場所です。

生月中殺をもつ人物が、家系と不自然な状態になるということは、小さい頃から家系（生家）に縁が無いという状態がつくられます。

縁がうすい状態もふくまれます。

☞ 生月中殺をもつ人は『子供中殺の宿命』です。

生月中殺をもつ親からの子供中殺を、子供がうけないためにはどのようにしたらよいのかです。

生月中殺をもつ親は、自分の手元から子供を手放すことです。このことは子供が中殺をうけるのを防ぐためにです。おそくとも、子供が社会に出るまでには、親元から離すことが基本になります。

「生月中殺」をもつ親は、子供が大人になるまでは、自分のそばに置いておいてもよいのですが、我が子を不自然な状況へ追い込むのが生月中殺です。

子供が自立できるようになると、子供中殺がおもてにあらわれてきます。

親が子供に縁えんがない状態が根底にあるわけです。

中殺現象を起こさないためには、親が子供の世界に入っていないことです。

それが生月中殺をもった親に求められます。

子供に「ああしなさい、こうしなさい」と干渉かんしょうしないことです。子供本人の自発じはつてき的な意思に任せるという育て方をすることです。

参考：干渉〔自分の意志に従わせようとする事〕〔かかわりあうこと〕

参考：自発的〔物事を自分から進んで行うさま〕

⇒ 「月干」について理解の程度を高めます。

月干は男性にとって、自分の社会の場です。

(家庭にとどまらず、外で働く女性にとっても社会の場です。)

生月中殺の人は「月干」が不自然になります。

主として人間関係が不自然になると考えています。

仕事上の人間関係で苦勞しますけど、それは仕方のないことだと考えています。

それゆえ「生月中殺」をもつ人は、対人関係においては、<sup>むしん</sup>無心で付き合えばよいのです。

「月干」は仕事の場です。そこが中殺されていますから、おなじ仕事を定年までやり通すことがとても難しくなります。途中で転職することが多いです。ひとつの会社に居続けて勤務することは、ほとんど無いといわれています。

ただ、<sup>さっこん</sup>昨今は転職がとても多い時代ですから、<sup>いちがい</sup>一概にいけない部分もあります。

(気にかかるようなら、鑑定をうけるのも方法でしょう)

参考：一概 [すべてをおなじにみてひとつにすること]

参考：無心 [邪念のないこと] [心中に何もとらわれた心がないこと]

[心に何のわだかまりもなく素直なさま] [自然のままに素直なさま]

参考：一概 [すべてをおなじにみてひとつにすること]

おなじ会社に居続けることもありますが、その場合は普通とは異なる状況下を必要とします。

〔たとえば〕物足りない、気がめいるとかの不満足な状態でも、自分は構わないということであれば、勤務を続けることはできます。

生月中殺をもつ人は、会社が<sup>いま</sup>現在の状態を維持できなくなり、大きく方向転換を求められるような事態が起きたときに、生月中殺をもつ人が統率力を発揮して、組織を引っ張っていくことができれば、その事業はつながっていくと考えています。

生月中殺の人は<sup>ひとところ</sup>一所に<sup>とど</sup>留まれないような宿命ですから、1つの会社にずっと勤務するのなら、会社が転換するような状況にならないと難しいのです。

〔たとえば〕会社の吸収合併などの状況のときに、リーダー格に抜擢されれば、おなじ会社にとどまることは可能です。

そうでなければ無理です。

つまりその人物が主役にならないと駄目ということです。

☞ 旧国鉄きゅうこくてつ（日本国有鉄道）から東日本と西日本へと二分割して、JR民営化へと道筋を立てた人物は、生月中殺をもっています。

その会社・組織の大小の程度がありますから、国鉄からJRへ転換するほどの大きな転換はないでしょうが、それに近い状況があれば改革は起こります。端的に言えば、生月中殺をもつ人は改革者です。

そのときに活躍して改革者としての役割をまっとうできるのかどうかは、その人物の生き様いきさまによります。参考・生き様〔独自の生き方、それをつらぬき通して生きる姿〕

☞ 月干は社会の場ですから、仕事の場ともいえます。社会は人間関係です。組織もそうです。生月中殺の人がもつ質は、必ずしも組織に同調しないともいえます。組織からはみ出しやすい人です。

サラリーマン社会は人間関係が重要視されますが、宿命に生月中殺のある人は、人間関係がうまくいかないことが多くなって当たり前でもあるのです。男性に限らず女性が仕事で働いていれば、組織での人間関係の苦労は付いてまわります。

宿命中殺をもつ人と、宿命中殺をもたない人では、世界が異なります。

宿命中殺をもたない人は、宿命中殺をもつ人の世界を理解できないといえます。

⇒ 「生月中殺」をもつ人の結婚を考えます。

生月中殺をもつ女性が結婚して、夫の宿命に宿命中殺が無い夫婦の場合は、夫と摩擦が起こりやすいといえます。

世界が異なりますから、夫婦として調和を取るのが難しくなります。

夫との関係が思うようにいかない（夫が浮気する）ということも起こります。

そうなると、生月中殺の女性は結婚運が悪いというふうにもなりますけど、結婚相手によります。

生月中殺をもつ人は生月中殺をもつ人と結婚するのが相性あいしょうです。

〔たとえば〕生月中殺をもっている女性は、相手の男性も生月中殺をもっていればよいのです。

その結婚であれば、夫婦間の不協和音ふきょうわおんの響きひびは起こりません。〔異常な人〕と〔異常な人〕が結婚するわけですから正常です。中殺には異常という意味があります。

〔自分も異常〕で〔相手も異常〕という結びつきの夫婦の姿を他人から見て異常に映<sup>うつ</sup>っても、生月中殺同士の夫婦は異常ではなくて正常です。

お互いに相性<sup>あいしょう</sup>がよければ異常にはならないのです。

参考：映る〔人の心に…ある印象を与える〕

前述しましたように……宿命<sup>しゅめい</sup>中殺をもつ人と、もたない人では世界が異なりますから、齟齬<sup>そご</sup>が生じてしまうために不協和音がひびくのです。

その意味で「生月中殺」をもつ者同士は相性<sup>あいしょう</sup>です。

おなじく「生年中殺」もっている者同士も相性です。

そしてつぎに、相性の度合いは、ちょっと落ちますけど、異なる宿命<sup>しゅめい</sup>中殺も相性です。

つまり「生年中殺」と「生月中殺」の人も相性です。

「宿命<sup>しゅめい</sup>中殺」をもっている者同士であれば釣り合<sup>つ</sup>います。相性がよいのです。

参考：釣り合<sup>つ</sup>い〔二つのものが安定した状態をたもつ〕

そのなかでも、相性が一番よいのはおなじ場所同士の宿命<sup>しゅめい</sup>中殺です。

「生年中殺なら生年中殺」「生月中殺なら生月中殺」です。

生月中殺は結婚運が悪いのでは……？といっても、必ずしも、結婚運が悪い状態になるとは限りません。結婚相手によるのです。

しかし、宿命中殺がある人と、宿命中殺がない人の結婚は、相性が悪いということになります。

世界が違えば——結婚運はよくないです。

そうしますと、相性の悪い2人が結婚したときは、どうすればよいの？……となるわけです。

お互いの不自然な<sup>かしょ</sup>箇所<sup>にんよう</sup>を認容すればよいのです。

宿命中殺をもっている人と、もっていない人の結婚は、異質な世界の結びつきに起因します。

これは仕方ないのです。

異質な形はさまざまですが、どこかの<sup>かしょ</sup>箇所<sup>にんよう</sup>に夫婦の調和を乱す火種があるはずです。

それはご夫婦でわかるはずですから、その部分を<sup>にんよう</sup>認容するのです。

それが〔できる〕〔できない〕はご夫婦次第です。

参考：箇所〔その火種になるところ〕

参考：認容〔みとめ許すこと〕

参考：家内〔家の内。その家で生活する人たち〕

☞ 宿命中殺をもつ者同士の結婚なら、ほとんど問題は出ないでしょう。

それは夫婦のあいだに限られます。

宿命中殺をもつ者同士の結婚は最適です。と書きましたが、夫婦と親子の相性はまったく別です。

☞ 親も子供も宿命中殺をもっている。

この相性は悪いです。

親子関係でいえば、もっとも悪い関係になります。

宿命中殺をもつ人は〔親縁が薄い〕とか〔子供縁が薄い〕と言っているわけです。

親と子がおなじ宿命中殺だから、親子の相性がよいという意味にはなりません。

親と子は〔縦〕の関係です。〔縦線の関係〕です。

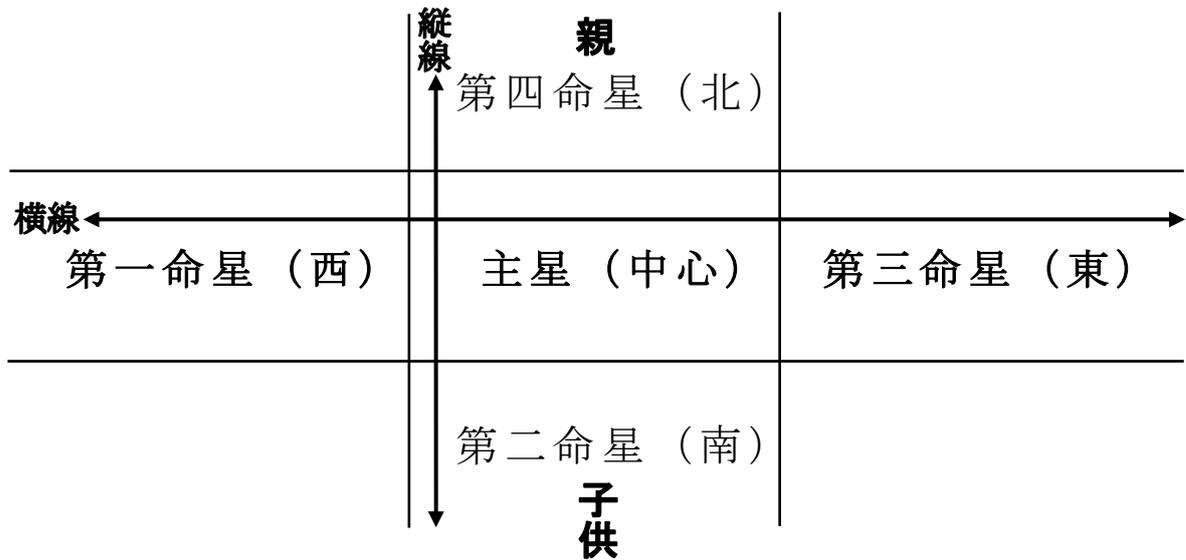
夫婦は〔横〕の関係です。〔横線の関係〕です。

夫婦のように〔横並び〕なら問題はないです。

つまり『夫婦は対等』だと考えています。

そして、友人も横並びの関係です。

宿命(9) 人体図の縦線・横線



人体図で……第一命星・主星・第三命星は横並びです  
親と子は〔縦〕の関係です。

宿命中殺をもつ者同士の友人関係は、お互いのことを理解し合えます。

その意味でよさがあります。

友人でも親友的存在となると、<sup>あいしょう</sup>相性が大きく影響します。

<sup>たん</sup>単なる(ただの)友人なら、相性を気にしないほうがよいです。相性にこだわらないほうがよいです

友人関係は不特定多数というところによさがあります。

気が合う友人がいたり、気が合わない友人がいたり、  
そういう友人関係のほうがよいです。

しかし、夫婦と友人は大きく異なります。

夫婦は1対1です。

気に入らない相手では困ります。

参考：気があう〔物の見方や考え方が似ていて気持ちが通い合う〕

⇒ 生月中殺は「<sup>げっかんし</sup>月干支」が中殺されています。

夫は生月中殺が無くても、妻が生月中殺をもっていると、夫にも影響します。

「<sup>げっかん</sup>月干」は社会の場所でもあるわけです。

社会の場所は一般的には〔働く場所〕です。

男性はそのまま〔働く場所〕として考えます。

女性で働いている場合は、男性とおなじで〔働く場所〕として考えます。

しかし、一般的に女性は家庭の主婦が多いですね。

それらの女性は外で働いていないわけです。

外で働いていなくても、「月干」というのは夫を<sup>とお</sup>通しての社会の場所になります。

それはどういうことなのかといいますと、女性に生月中殺があるなしに関係なく、宿命には「月干」があります。

女性も男性とおなじで「月干」は社会の場所です。

外で働いている女性であれば、男性とおなじで「月干」は社会の場所ですが、主婦がはたらく家庭を社会の場所といません。家庭を社会の場所とは考えません。

しかし『家庭の主婦であり、外で働いていない』場合でも「月干」を『妻の社会の場所』として考えるのです。

このような考え方をするのは女性の特徴です。

〔たとえば〕 第 45・第 47 代アメリカ合衆国大統領『ドナルド・トランプ』の妻『メラニア・トランプ』には、アメリカ大統領の妻という「社会の場所」が与えられます。

おなじく、役職とか肩書きのある男性の妻は「社会の場所」として、夫の肩書きがつかわれます。

夫の役職がつけられて、社長婦人・課長婦人といわれますが、夫の役職がつけられ呼称されます。

このように夫の地位そのものを、女性の「社会」と考えください。

これらの事柄を、宿命に生月中殺をもつ女性に<sup>あ</sup>当て<sub>は</sub>嵌めて考えて頂きたいのです。

生月中殺をもつ女性は「月干（社会の場）」が中殺をうけるわけです。

当然、生月中殺をもつ女性と結婚した男性は、妻の運勢の影響を受けることになります。

それゆえ、生月中殺をもつ女性の夫が異常な状態を起こしてしまうこともあるわけです。

天干てんかんの「月干げっかん」は社会の場所です。

地支ちしの（月支げっし）は家系かけいの場所です。

「生月中殺」をもつ人は（月支）が中殺をうけますから、

二十八元にじゅうはちげんの〔蔵干ぞうかん〕も中殺されます。

（月支）はどなたでも、自分の立地りっちであり、家系の場所ですから、生月中殺は家系中殺の宿命です。

それゆえ、生月中殺をもつ人は家系とは縁がうすい状態がつくられるわけです。

〔立地〕については、上のクラスで学びます。

☞ 夫婦は相手の運勢をつかうこともできます。

〔たとえば〕妻がとてよよい運勢をもっていたとします。

その妻の運勢を夫がつかうことができます。

大した運勢でもない夫が、妻のよい運勢をつかって成功するということが起こります。

端的に言えば、夫婦はお互いの運勢をつかうことができるわけです。（夫婦であればです）

妻の運勢で総理になる人は結構います。

☞ 「生月中殺」 をうけている陰占の場所を人体図でみます。

宿命（10）生月中殺・人体図

	第四命星 習得本能 年干	第3従星 年支
第一命星 攻撃本能 日支の蔵干	主星 魅力本能 月支の蔵干	第三命星 守備本能 年支の蔵干
第1従星 日支	第二命星 伝達本能 月干	第2従星 月支

「生月中殺」五本能で主星の魅力本能が異常になります。第二命星の伝達本能が不自然融合（異常）になります。十二大従星は第2従星が不自然融合になります。という風<sup>ふう</sup>に考えることができます。主星の〔魅力本能〕。第二命星の〔伝達本能〕。そして第2従星の場所の3ヶ所です。

主星の魅力本能と第二命星の伝達本能が不自然・不完全ということは、自分が伝えたいと思うことが、うまく伝わらないという状態が起きます。

不自然な魅力は相手の誤解を招くことにもつながります。異常な不自然な魅力と伝達になるわけです。

生月中殺の人は、自分が本当に伝えたいと考えていることが、〔間違って相手に伝わってしまう〕……

〔なにかもくろみがあるのでは……〕と判断されてしまうことが多いです。

物事が思いどおりにいかないということが——悪いことに繋つながると言い切れませんが、自分が意図いとしない状態が起ってしまいます。

☞ 魅力本能は、好きになって貰うことですよね。

〔たとえば〕自分が好意をよせている人に好かれずに、好きでもない人に好かれてしまうというようなことが起こってしまいます。

好きでもない人に親切にして、本当に好きな人には親切にできないわけです。その人を好きなので意識してしまうために、意図しない不自然な状態になってしまいます。

つまり、本当は好きな人に、親しみをもって接したいのに、好きな人を過度に気にかけてしまい、よそよそしくなってしまうわけです。そして、好きでもない相手には、自然な状態で親切に接することができる状態がつくられます。このような態度は、自分が好意を寄せている相手側からすれば、ほかの人と異なる対応をされたということから、“自分のことを嫌っている”と思わせてしまうことになるでしょう。本当は違うわけです。

参考：意識 [思考する心の働き]

参考：意図 [考えていること。行おうとめざしている目的]

参考：態度 [物事に対して、感じたり考えたりしたことが表情、動作、ことばなどに現れたもの]

『十二大従星』の中殺については勉強する 때가 来ます。

それとおなじような状態は、若い頃に多いといえます。そのため本当に好きな人と、一緒になれないということも起きてしまいます。

この姿は生月中殺の特徴をかなりの的確に示していると考えています。

生月中殺の人は、無心でさりげなく……意図しない状態でやればよいのです。

あれやこれや張り切らないで、何気<sup>なにげ</sup>なしに話すことが、感銘を与えることもありますよね。

生月中殺の人はしゃべるときに、意気込んでしゃべると誤解されてしまいます。

自分はこういうことを伝えたいと意気込んで、張り切るほど、聞いている側は「この人、何を言っているのかしら……」と思われてしまうのです。

人に何かを伝えるという姿には、さまざまな方法があるわけです。

〔たとえば〕なにかを<sup>おこな</sup>行おうとするとき、あるいは、自分の考え方や物事を伝えるときに、当然、自分の意思の働きがあるはずですが、その思いを強く出せば出すほど、相手が誤解をするということが起こります。そのような誤解は、人体図のどこかの場所に中殺をもっている人の共通の課題ともいえます。

若いときの勢い・意気込みも、年齢を重ねて来ると……<sup>ま あ</sup>間合<sup>あ</sup>いを見計らって伝達するようになります。

つまり、適当な<sup>ころあい</sup>頃合<sup>あ</sup>をわきまえるようになりますから、あまり意気込まなくなってきました。

これは『生月中殺』の人もおなじと考えています。

参考：意思〔ある行動をとることを決め、かつそれを引き起こし、持続させる心的機能〕

参考：課題〔解決を求められている問題〕

☞ **一代運** と **初代運** まったく別のものです。

間違いやすいので、ハッキリと区別してください。

**一代運** 自分一代限りです。

「宿命二中殺」「宿命三中殺」「互換中殺」「日座中殺」

**初代運** 先祖、または、親の跡を継ぐことはできませんが自分の代からは、後をつないでいける可能性をもつ宿命です。「生年中殺」「生月中殺」

\* 松下幸之助 1894(M27)-11-27 1989(S23)-4-27 [94 歳没]

	癸	乙	甲		調舒星	天馳星	4 甲子
戊	酉	亥	午		龍高星	石門星	14 乙丑
亥		甲			天胡星	鳳閣星	24 丙寅
			己				34 丁卯
	辛	壬	丁				44 戊辰
		生 月 中 殺					54 己巳
							64 庚午
							74 辛未
							84 壬申
							94 乙酉

☞ パナソニックの創始者・松下幸之助氏の宿命は「生月中殺」です。

生月中殺は「養子をもって跡を継がせる」あるいは「自分が死んだ後に、跡を継がせる」のであればよいわけです。

自分が生きているあいだは「生月中殺」の中殺現象が活きています。跡を継いだ場合は子供が駄目になります。自分が死んでから跡を継がせる場合は問題ないのです。

☞ 「跡継ぎ」「後継者」に対して『血のつながり』を問いかけていません。

血のつながりの部分もありますが、家系をつなぐというのは、血縁だけではありません。

そして、会社をつなぐというのも、血縁ばかりではないわけです。

\* 橋本 龍太郎 1937(s12)7-29 [2006-7-1] 68歳没

	丁	丁	丁		貫索星	天庫星	8 丙午
子	巳	未	丑	石門星	鳳閣星	鳳閣星	18 乙巳
丑	戊	丁	癸	天将星	貫索星	天南星	28 甲辰
	庚	乙	辛				38 癸卯
	丙	己	己				48 壬寅
			生 年 中 殺				58 辛丑
							68 庚子
							78 己亥

橋本さんは：

- ・生まれて間もなく実の母親が死んでいます。
- ・彼の父と義母の間に生まれたのが橋本大二郎（前高知県知事）。
- ・龍太郎本人が〔26歳〕のとき、父が突然死亡。  
父親は厚生大臣までやった衆議院議員
- ・父親が死んだ翌年、選挙に初出馬。

この宿命は「生年中殺」です。

彼が生まれて間もなく母親が死亡しています。

本人が〔26歳〕のときに父親が死亡していますから、

とても親縁<sup>しんえん</sup>が薄いといえます。

生年中殺をもつ人物の親が死んだということは——  
親の場所を中殺した姿です。

橋本龍太郎がもっている生年中殺を<sup>い</sup>活かした姿です。  
それゆえ、家に居ても構いませんし、親の跡を継い  
でもよいわけです。

母親が死んだことで、彼は家を<sup>つ</sup>継げる状態になった  
といえます。

そして、より以上に彼の宿命に<sup>そく</sup>即するのは、父親が  
死んだということです。

その事実によって、生年中殺があっても、親の職業  
を継げることになります。

参考：即する〔ぴったりとあてはまる。適応する。〕

※ 親が死んだことがよい。この表現はあくまでも勉強の  
話しです。「生年中殺」という勉強の話です。

総理大臣まで昇<sup>のぼ</sup>れるのかどうかは別の話しとして、  
生年中殺を消化して国会議員になったという出発点  
から想定して、総理にまで昇れる可能性はあるとい  
えます。それが運勢であり、ここまでは生年中殺の  
宿命どおりです

そして、<sup>ままはは</sup>継母に育てられたのもよかったのです。

☞ 継母でよかった意味は、日干「丁火」にとって、丁火を生じる「甲木」が実母になります。しかし、彼の宿命に甲木はありません。そこで月支（未）の二十八元にある蔵干〔乙木〕を陰陽で母親として採ります。

この〔乙木〕は“育ての母”という意味になります。育ての母〔乙木〕を偏母<sup>へんぼ</sup>といいます。橋本龍太郎を育てた義母<sup>ぎぼ</sup>が偏母に相当します。

本来は、彼の弟が他界した父親の後継者になる予定であったそうですが、弟が年令に達していなかったこともあり、後継者を龍太郎に決定したのは義母だといわれています。

＊ ビル・クリントン 1946-8-19 [第 42 代アメリカ大統領]

	乙	丙	丙		調舒星	天庫星	7 丁酉
戊	丑	申	戊		車騎星	玉堂星	17 戊戌
亥	癸	戊	辛		天堂星	調舒星	27 己亥
	辛	壬 実母	丁				37 庚子
	己	庚	戊				47 辛丑
			生 年 中 殺				57 壬寅
							67 癸卯
							77 甲辰

大統領退任後には、妻のヒラリー・クリントン上院議員の活躍が目立ちました。

クリントン氏の父親は第二次世界大戦で、軍用車両修理の兵役に就いていましたが、ビルが誕生する3ヶ月前に交通事故で死亡します。

ビルは4歳になるまで、母方の祖父母に育てられました。

クリントン氏の<sup>じっぼ</sup>実母（ヴァージニア・デル・キャチディ）は4回結婚しています。『生年中殺』のビルにとっては好都合でした。何回も再婚するのは異常な状態と考えます。（どなたにもいえます）

結婚・離婚を繰り返すのは、母親が<sup>しあわ</sup>幸せではない姿  
ですから、母を中殺しているということになります。  
母が再婚して幸せな場合は、生年中殺をもつビルの  
運勢にとっては役にたちません。

母の胎内にいたときに、ビルの父親が死んだという  
事実があり、それだけでビルの運勢が<sup>い</sup>生きてきます。

☞ ビル・クリントンの宿命には実母がいます。

げっし<sup>さる</sup> 月支（申）の二十八元の中元〔<sup>ちゅうげん</sup> 壬水<sup>じんすい</sup>〕が実母です。  
その実母には何人もの男がいると書かれています。  
その男のなかには、ビルが生まれる前に交通事故で  
他界した実の父親、そしてアル中の義父もでている  
わけです。壬水の干合相手の丁火は夫です。陰陽で丙火は男です。  
母親の男が3人出ているということは、4人いても、  
5人いてもおかしくないのです。

母親は何度も結婚・離婚を繰り返しています。

このことはビルにとって<sup>つら</sup>辛いことでもあり、ビルの  
運勢的には有り難いことでもあるのです。

たびたび書きましたが、本人の宿命は、親の場所を  
中殺していますから、生まれてから早めに親元から  
離れることがよいわけです。

ビルは幼くして、母方の祖母に育てられています。

「生年中殺」をもつビル・クリントンにとっては、親を中殺（異常な状態）に追い込むのが宿命どおりですから、父親が死亡しただけでも、彼の宿命は生きてきます。その犠牲者を基<sup>もと</sup>にしてクリントン大統領という名声と地位をつくったといえます。

宿命中殺のなかで、「生年中殺」をもって生まれた橋本龍太郎とビル・クリントンという2人の政治家は、実の父、実の母に縁<sup>えん</sup>がないわけです。

それゆえ、実の両親がいないほうがよいのです。

橋本龍太郎は義母に、ビル・クリントンは祖母に育てられたことは、運勢を上げる意味で非常に助けになったといえます。

☞ 子供が「生年中殺」をもっていたら、親が死ぬと子供の宿命が生きてきます。

親子にとってよい状態をつくるには『早く親元を離れる』これが1番に無難な方法です。

子供の宿命が生きて来ると、さまざまな分野において、それなりの活躍できる可能性があります。

参考⇒ 宿命中殺をもつ人物を記載しました。➡

✽ 加藤 <sup>き み え</sup> 喜美枝 1913(T2)-7-7 (美空ひばりの母親)

	己	戊	癸		禄存星	天庫星	9 辛卯
午	丑	午	丑	貫索星	龍高星	貫索星	19 庚寅
未	癸		癸	天庫星	石門星	天禄星	29 己丑
	辛	己	辛				39 戊子
	己	丁	己				49 丁亥
		生月中殺					59 丙戌
							69 乙酉

✽ 美空 ひばり 1937(S12)-5-29

	丙	乙	丁		石門星	天印星	3 丙午
子	辰	巳	丑	鳳閣星	貫索星	調舒星	13 丁未
丑	乙	戊	癸	天南星	玉堂星	天禄星	23 戊申
	癸	庚	辛				33 己酉
	戊	丙	己				43 庚戌
			生年中殺				53 辛亥
							63 壬子

＊ マイケル・ジャクソン 1958-8-29

申 酉	戊	庚	戊		貫索星	天庫星	4 辛酉
	寅	申	戌	車騎星	鳳閣星	貫索星	14 壬戌
	戊	戊	辛	天貴星	鳳閣星	天胡星	24 癸亥
	丙	壬	丁				34 甲子
	甲	庚	戊				44 乙丑
	生月中殺						54 丙寅
							64 丁卯

＊ スティーブン・スピルバーグ 1946-12-18

戌 亥	丙	庚	丙		貫索星	天庫星	7 辛丑
	寅	子	戌	貫索星	牽牛星	石門星	17 壬寅
	戊		辛	天貴星	祿存星	天報星	27 癸卯
	丙		丁				37 甲辰
	甲	癸	戊				47 乙巳
	生年中殺						57 丙午
							67 丁未
							77 戊申

✽ 小泉 純一郎 1942(S17)-1-8

子	辛	辛	辛		貫索星	天極星	1 丙午	
	酉	丑		巳	貫索星	鳳閣星	玉堂星	11 丁未
丑		癸	戊		天祿星	貫索星	天印星	21 戊申
		辛		庚				31 己酉
	辛	己	丙				41 庚戌	
			生 年 中 殺				51 辛亥	
								61 壬子
								71 癸丑

✽ スティーブン・ホーキング博士もおなじです⇒1942-1-8

✽ 安倍 晋三 1954(S29)-9-21

申	庚	癸	甲		祿存星	天恍星	6 甲戌	
	辰	酉		午	龍高星	石門星	玉堂星	16 乙亥
酉	乙		己		天印星	調舒星	天将星	26 丙子
	癸			丁				36 丁丑
	戊	辛					46 戊寅	
		生 月 中 殺					56 己卯	
								66 庚辰
								76 辛巳



＊ 大谷 <sup>しょうへい</sup> 翔平 1994 (h6) -7-5

	壬	庚	甲		鳳閣星	天南星	1 辛未
午	辰	午	戌	車騎星	司祿星	車騎星	11 壬申
未	乙		辛	天庫星	龍高星	天報星	21 癸酉
	癸	己	丁				31 甲戌
	戊	丁	戊				41 乙亥
		生月中殺					51 丙子

＊ 大の里 2000 (h12) -6-7

年干支「庚辰」の天中殺が日支（申）を中殺している

	丙	壬	庚			祿存星	天南星	10 癸未
辰	申	午	辰	申	鳳閣星	調舒星	玉堂星	20 甲申
巳	戊		乙	酉	天胡星	車騎星	天将星	30 乙酉
	壬	己	癸	生日中殺				40 丙戌
	庚	丁	戊					50 丁亥
			生年中殺					60 戊子

【初年】 58 回目 【天中殺論(4)】 終わります

つぎの授業 ⇒ 【初年】 59 回目 【天中殺論(5)】 です。